



向陵だより

相手意識をもち、自他を大切にする向陵っ子の育成
～ あなたも わたしも みんな たいせつ ～

～「安全・安心で元気な学校」づくりのために～

令和8年 7月23日(木)



その噂、信じて大丈夫なの？

校長 加藤 晴久

1学期の終業式を迎え、32日間の夏休みに入ります。まずは、事故に遭ったり病気になったりしないように、安全に元気で過ごしてほしいと願っています。そのうえで、夏休みの最後に「続けて頑張れた！」「前よりうまくできるようになった！」と自信をもって言えることがあると、とてもいい夏休みになったと言えると思います。

さて、最近フェイクニュースやネット上のデマが頻繁に話題に上ることが多くあります。生成 AI の発達により、ネット上には文字だけでなく巧妙に作られた映像が加わることで、人々の興味を引き付け、信じ込んでしまう要因となっているようです。このような噂話、または流言（デマ）と呼ばれるものは、いつの時代にもありました。私が子どもの頃にも「ノストラダムスの大予言」が流行り、1999年7月に人類が滅亡すると言われていました。自分は「そんなはずあるわけない」と信じない派でしたが、頭の片隅ではちょっと不安な気持ちもあったことを覚えています。もちろん、人類は滅亡することなく現在に至っています。ただ、最近のフェイクニュースは SNS で簡単に拡散されるため、人々の生活にも大きな影響を与えるものがあります。2024年1月に起きた能登半島地震では、被災者を装った救助要請があり、悪質なデマにより人命救助まで影響がでました。また、昨年には、「7月5日に日本で大災害が起こる」という噂が起り、そのときは香港からの定期便が減便になるなど、人々の行動や経済に大きな影響を与えました。科学的に根拠のない、または真実性がないような噂は人々の生命や経済活動に影響があるものだけでなく、都市伝説といわれるようなものからゴシップ的なものまで千差万別、身近なところで日常的に起きています。SNS の利用が一般的になった現在、事実に基づかない噂であっても、すぐに世の中に拡散されるようになりました。場合によっては、人を傷つけてしまったり、差別やいじめに繋がったりします。また、児童が SNS 等に起因した犯罪の被害に巻き込まれるケースも近年増えています。

このように、ネットや SNS が便利な反面、大きな負の側面ももち合わせているのも事実です。だからといって、子どもたちからスマートフォンや SNS 等を単に遠ざけることが教育上最善の策とは思えません。子どもたちが、リスクが生じる仕組みを理解し、適切に対応する力を身に付けさせることが大人の大切な役目だと言えるでしょう。

SNS 等の利用について以下のような調査結果があります。（10代～60代のアンケート）

日本は他国と比べて、偽・誤情報だと思える情報を見かける頻度が他国と比べて「ほとんどない」「何が偽・誤情報が分からない」という回答が高くなっています。つまり、SNS やブログなどでの偽・誤情報の認識率が他国より低い状況にあります。また、ネットの情報の真偽を確かめる人の割合も他国と比べて大幅に低い結果もありました。

ネットや SNS の情報の真偽を見極め、適切に情報を活用する力を育てることが、今を生きる子どもたちに必要です。もちろん、我々大人にとっても必要なスキルだと言えるでしょう。

学校では、6月に旭川市の青少年育成支援員（元警察官）の方を講師に迎え、4～6年生を対象に「SNS 非行防止教室」を実施しました。また、各学年に応じた SNS やネットゲーム等の使用についてのマナーや情報モラルについての学習を行っています。更に、タブレット端末を使うときのルールを設定し、子どもたちに指導しています。

夏休みは、子どもたちがネットや SNS に触れる機会が多くなります。ご家庭でもスマートフォンやゲーム機等でネットや SNS を利用する際のルールをしっかりと決めて、お子さんの利用状況を確認していただくようお願いします。

SNSやブログなどで偽情報・誤情報だと思える情報を見かける頻度

	ほとんどない（％）	そもそも何が偽情報・誤情報なのかが分からない（％）
日本	15.3	14.5
アメリカ	4.5	1.3
イギリス	7.3	1.9
フランス	8.7	3.3
韓国	7.9	1.1

出所：総務省「令和4年度 国内外における偽・誤情報に関する意識調査」より作成